

持続可能な農業をめざす地域・担い手づくり

紀ノ川農業協同組合
組合長 宇田 篤弘

魅力的な農協、農家へ

地域と協同し自然と共生する



宇田さん

紀ノ川農協の特徴を一言で言いますと、和歌山県全域を地区とした販売の専門農協です。金融や共済はやっていません。1976年にもともとJAの青年部で産直を始めましたが、事情があつてそ

けんせつ2303号に続き、昨年11月の第6回「中小企業を元気に」シンポジウムでのシンポジストの發言を紹介いたします。紀ノ川農業協同組合長の宇田篤弘さん

んによる持続可能な農業と、内藤鋼業有限会社代表取締役・内子バイオマス発電所所長の内藤昌典さんによるバイオマス発電の取り組みです。(文責・見出しとも編集部)



バイオマス発電所のパンフレット(左)と内藤鋼業の事業内容(右)



を飛び出し、自分たちで農民組合を作って農協を1983年に結成しました。現状は正味18億円ちょっとの事業規模です。かなりの生産者が名前だけになっています。組合員数は927人で横ばいですが、事業高は減っています。実態は300人くらいがお休み状態です。

2016年に若手の理事に、これからの紀ノ川農協をどんなふうにしていきたいか



内藤さん

愛媛県内子町は面積約300km²、人口は1万6000人ちょっとで、7100世帯くらいです。平成の大合併により、旧内子町、五十崎町、小田町で新内子町になりました。

バイオマス発電へのエネルギーシフト

森林資源を発電に活用 世帯の3分の1に電力供給

バイオマス発電へのエネルギーシフト

内藤鋼業有限会社 代表取締役 内藤 昌典

た。産業は農林業と観光業です。内子町は約8割が森林です。内子町森林組合の小田原木市場の隣が私たちの工場です。内子バイオマス発電所、内子町森林組合は未利用材(間伐材)を出して頂く協定を結んでいます。ペレット工場と発電所を原料に近い所で全部やっています。

平成23年にペレット工場を建て、化石燃料に代わるもの

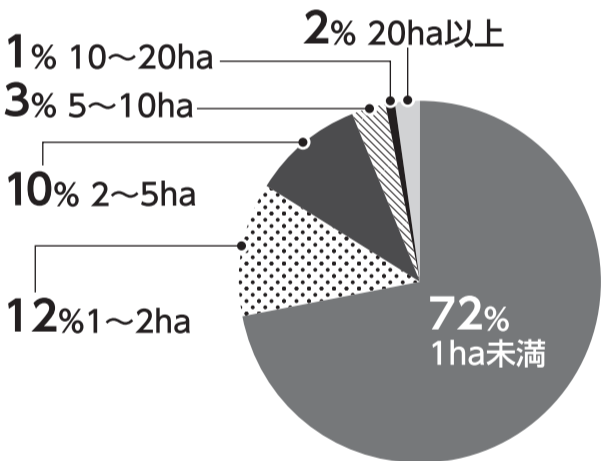
として木質ペレットを販売してました。原油が値上がりしているときは良かったのですが、シェールオイルなどが出てきて1バーレル100ドルが30ドルくらいになり、ペレットが全然売れなくなりました。これは大変だということ

ペレットをガス化装置でガス化させ、ガスエンジンで発電させます。ガス化装置6台、

エンジン6台で990kW作ります。ガス化して出た熱とエンジンの熱で90℃の温水が

の町で回ることになり、町が豊かになっていくのです。

世界の農家の割合(農地の規模別)



出典:国際連合食糧農業機関(FAO) [世界食料農業白書2014年報告・家族農業における革新]

家族農業の発展へ

生産者から政策を変える

の節目の年でもあります。これを進めていくために若手の理事から常任理事3人を選任して、3つの専門委員会を作っています。持続可能な農業を進めるための栽培技術、流通の仕方、販売の仕方

の暮らしがあり、地域の暮らしがあり、文化があります。そこから逃げていくわけにいかないのです。

40周年まで事業規模継続させる

2016年くらいに、東京五輪まで事業規模を継続していくことを考えたのですが、家

2019年から「家族農業の10年」が始まりました。家族農業とは何かということに

家族農業の10年」が国連で採択されたので、もう少し先まで長くがんばれるような内容を作らなければだめだと、20

家族農業の役割が非常に大事だということが国連で再確認されました。以前は緑の革命といって大規模でやることで食料を賄っていくと考えられていたのが、今は変わって、家族農業を発展させることが世界の食料を賄っていくことになるという考え方で

収入が少なくても

地産地消で4億円が町に

変わりました。ペレットは未利用材や、一般木材のおが屑・かんなど副産物から発電用ペレットを、おが屑・かんなどからはストーブやボイラー用の燃料用ペレットを作っています。

ペレットは年間5700tほど使います。木材に換算すると未利用材で1万1500tくらいです。初期投資が12億8000万円ほどかかりました。発電規模は115kW、年間811万kWを

2016年に若手の理事に、これからの紀ノ川農協をどんなふうにしていきたいか

家族農業の役割が非常に大事だということが国連で再確認されました。以前は緑の革命といって大規模でやることで食料を賄っていくと考えられていたのが、今は変わって、家族農業を発展させることが世界の食料を賄っていくことになるという考え方で